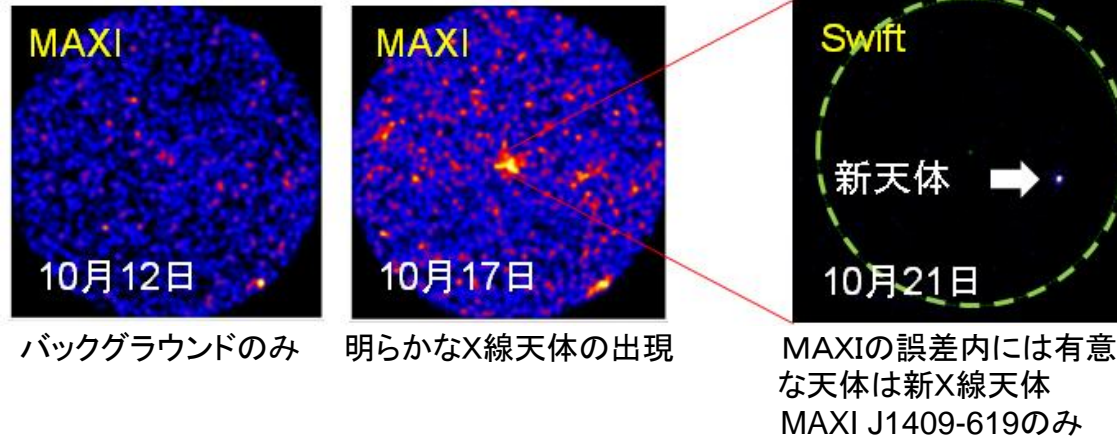
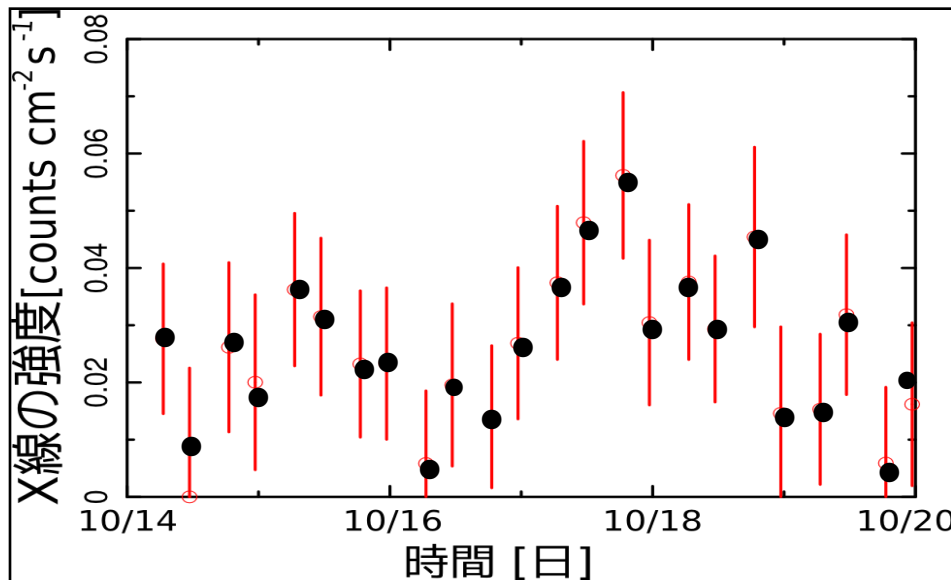


新X線天体 MAXI J1409-619 の発見でSwift衛星と連携プレー



新天体発見の経緯: MAXIチームの山岡和貴(青学大)はケンタウルス座に10月17日頃から輝く新X線源を見つけMAXIチームに報告。これを受け多くのチームメンバーが解析したり過去のX線観測情報を調べ新X線天体と確定し、天文電報(ATel#2959)で世界に報せ、同時に、NASAのSwift衛星に詳細観測を依頼した。SwiftチームのJ.A.Kennea(Pen-State U.)が中心になり10月20日にはMAXIの誤差(0.2°)内に新X線天体を1.9"の誤差で特定した(ATel#2962)。新天体名にはMAXI名が付いたが、MAXIとSwiftの両チームの見事な連携プレーが結実した成果である。Swiftは視野が狭いものの位置を精度よく決められる小型X線望遠鏡をもっているため、MAXIとは相補的に協力する取り決めをしている。その後山岡が中心になり、NASAのRXTEの望遠鏡でも追観測をし、濃いガスで包まれていることが解った(ATel#2969)。



図の説明: 左上図はMAXIのGSCで撮った新天体 MAXI J1409-619を中心に半径10度のイメージ。2010年10月12日には新天体を確認できなかったが、10月17日にはかに星雲のX線強度の1/17の新天体像がある。この位置をSwift衛星の視野の狭い小型X線望遠鏡で撮った像も示した。Swiftの画像の中心はMAXIで決めた中心、ダッシュ点の円はMAXIの誤差の範囲を示す(半径0.2度)。この新天体の位置は赤経= $14^{\text{h}}8^{\text{m}}2.56^{\text{s}}$ 赤緯= $-61^{\circ}59'0.3''$ (誤差1.9")
下図: 10月14日~20日のMAXI/GSCのX線強度曲線。